

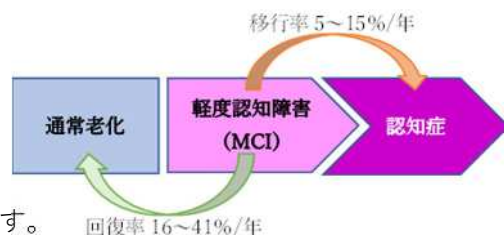
## MCI スクリーニング検査プラスのご案内

ー 9つのタンパク質を解析し、軽度認知障害（MCI）のリスクを判定します ー

### MCI スクリーニング検査プラス

MCI スクリーニング検査プラスは、認知症の前段階である軽度認知障害(MCI) のリスクを判定する血液検査で、

認知症予防のための早期発見・早期予防の手段として有用な検査です。



MCI スクリーニング検査プラスはアルツハイマー型認知症の病態進行に関わる、「栄養」「脂質代謝」「炎症・免疫」「凝固線溶」の4つのカテゴリー、9つのタンパク質の血中濃度を測定し、MCI のリスクを評価します。判定結果はリスクに応じてA~Dの4段階、4つのカテゴリーを良好・注意・要注意の3段階で評価します。MCI の段階で適切な対応を行えば、その後の進行を遅らせたり、予防ができることが分かってきました。

ご報告は専用報告書となります。報告書に併せ「認知症予防マニュアル」をお渡しします。

現在、松本市医師会検査健診センターの健診オプション項目として導入しております。

### 検査概要

検査項目名	MCI スクリーニング検査プラス
検体量	血漿 0.5mL (EDTA-2K 採血管)
検査方法	LC-MS 法
所要日数	20 日
備考	採血後 24 時間以内にご提出ください。 中年期以降 (40 代から) の検査受診を推奨しています。

保険は未収載です

ご依頼の際は、総合検査依頼書の「追加項目」欄に「MCI プラス」とご記入ください。



## ■第62回 人間ドック学術大会プレナリーセッション 優秀賞 受賞

### ●MCIスクリーニング検査プラスは、

血液検査によりアルツハイマー型認知症の原因の一つであるアミロイドβを排除する機能を持ったタンパク質、アミロイドβの蓄積リスクとなる血管の損傷や炎症に関連するタンパク質を測定し、認知症発症以前のMCIのリスク評価します。

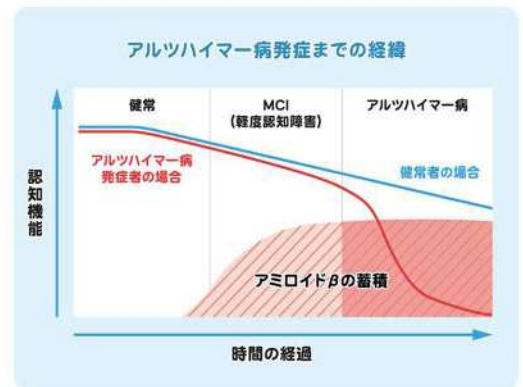
### 認知症は、発症の20～30年前からの生活習慣が影響？

認知症はある日突然発症するのではなく、長い年月をかけて脳内に原因となる老廃物が蓄積し発症します。

一番の原因は加齢ですが、実は**中年期からの生活習慣の積み重ねも大きく影響する**と言われています。

認知症の中でも最も多いアルツハイマー病は一度発症すると健常に戻ることはできません。

**MCIの段階で適切な対応を行えば、その後の進行を遅らせたり予防ができることが分かってきました。**



### ●MCIスクリーニング検査プラス検査の意義



認知症の診断で行われる検査とは違い

**もの忘れの自覚のない段階から、将来の認知症発症リスクを評価**できます。

本検査は**中年期以降の方を対象**に検査受診を推奨しており、

認知症予防のための**早期発見・早期予防の手段として有用な検査**です。(推奨年齢：40代以降)

#### MCIスクリーニング検査プラスの特徴

検査は**5 ml**の採血。  
**短時間**で終わる検査です。



既に**60,000**人以上の方が  
受けている検査です。



**40代**から受診可能で  
**早期発見・早期対応**が  
可能です。



**健診や人間ドックの  
オプション検査**としての  
採用が増えています



# 検査結果報告書

## ▶検査結果報告書も大幅にリニューアル！

判定結果はリスクに応じてA～Dの4段階。

4つのカテゴリーを良好・注意・要注意の3段階で評価します。

テスト ハナコ 様 MCIスクリーニング検査プラス 結果報告書

### リスク評価

あなたのMCIリスク値 **0.47**

**A評価**

現在のMCIのリスクはほぼありません。今後も健康的な日常生活を送りましょう。

評価	リスク値	説明
A	0.00～0.50	現在の生活習慣を継続し、健康寿命を伸ばすことが大切です。ご自身の健康を定期的に確認して予防に努めましょう。
B	0.51～1.00	軽微的な生活習慣的改善が必要で、MCIのリスクを抑えることができます。予防は早く取り始めるほど効果的なので、引き続き予防に努めましょう。
C	1.01～1.50	【中年期の方】現在の生活習慣を改善する必要があります。予防に努め、健康的な日常生活を送ることが大切です。 【高齢の方】生活習慣を見直し、直ちに予防に取り組みましょう。物忘れが気になる場合は専門家に相談しましょう。
D	1.51～2.00	【中年期の方】このままの生活習慣が続くと将来的なMCIのリスクが高まります。日常生活を見直し、予防に取り組みましょう。 【高齢の方】専門医による詳細な検査を受け、適切な予防を受けることをおすすめします。

※年齢別の予防の目安は、医師の診断に基づいてください。

当検査ではアルツハイマー型認知症の発症に関わるタンパク質の量を測定することでMCIのリスクを判定しています。またそのタンパク質を4つのカテゴリーに分けてリスクレベルを表示しています。

### 4つのカテゴリーにおけるあなたのリスクレベル

カテゴリー	リスクレベル
良好	4.3
注意	2.4
要注意	2.0
危険	3.0

**検査を終えて**

MCIや認知症の予防は生活習慣の見直しが必要不可欠です。今回の「認知症予防マニュアル」や「認知症予防習慣」を参考に予防に努めましょう。次回は2022年の6月頃を予定して検査を受けましょう。

### 測定しているタンパク質について

アルツハイマー型認知症の発症のリスクは加齢であり、また生活習慣の乱れも大きく影響するといわれています。老化や生活習慣の乱れが原因で脳内の「血管」がダメージを受け損傷すると、「炎症」が引き起こされ、血管の弾力性が低下します。それにより主な原因の一つといわれているアミロイドβ（以下Aβ）が蓄積します。MCIスクリーニング検査プラスでは、これらの病変進行に関わるタンパク質の量を測定し、MCIのリスクを判定しています。

カテゴリー	説明
良好	体の栄養状態を反映するタンパク質の量を測定しています。これはあなたの中のAβを抑制したり、毒性を低減する機能があります。体をつくるタンパク質や体の調子を整えるビタミン・ミネラル・エネルギー源になる糖質や脂質をバランスよくとることが大切です。 【中年期の方】バランスの良い食事を心がけることで、炎症・高血圧・糖尿病を防ぐことができます。その結果、認知症予防につながります。 【高齢の方】「食事・運動・睡眠」が、認知症予防の鍵です。生活習慣を整えていき、健康的に長生きを目指すことが大切です。
注意	【中年期の方】生活のストレスを減らすことで、炎症を抑え、血管がスムーズに流れるようになります。その結果、認知症予防につながります。 【高齢の方】高血圧・糖尿病・脂質異常症などの疾患のバランスが崩れると、バランスの良い食事を心がけることが大切です。
要注意	体のダメージを反映するタンパク質と体の免疫力の主役となるタンパク質の量を測定しています。これはあなたの中のAβを排出する役割を持つ細胞や体の機能をサポートし、炎症を抑える働きに期待されています。規則正しい生活習慣を心がけることが大切です。 【中年期の方】食事や睡眠と合わせた生活習慣を見直し、運動を取り入れるなど規則正しい生活習慣を身に付けて、健康状態に気を配ることが大切です。 【高齢の方】年齢が上がることで、炎症が起こればまた免疫力が低下してきます。バランスの良い食事と適度な運動に加え、十分な睡眠とストレスのない生活を心がけることが大切です。
危険	あなたの今の生活習慣を用いて、あなた自身の生活習慣を改善するためのタンパク質の量を測定しています。これはあなたの中の炎症を抑え、認知症予防につながります。生活習慣を整えていき、健康的に長生きを目指すことが大切です。 【中年期の方】食事・運動・睡眠・適度な飲酒など生活習慣の改善を行い、健康状態に気を配ることが大切です。 【高齢の方】認知症予防につながります。生活習慣的な改善をお待ちの方はその改善を行うことが大切です。

## ▶認知症予防方法

受診者全員に、認知症予防マニュアル(冊子)をお渡ししています。

また、「認知症予防習慣」WEBサイトでも予防方法を定期発信しています。

<冊子>



<WEBサイト>



## ▶検査を受けて

生活習慣の乱れや加齢により、MCIや認知症のリスクは自然と高まります。検査を受けて今の状態を知り、検査結果をヒントに生活習慣を改善し、MCI・認知症予防に取り組みましょう！



検査についての詳細はこちら



URL : <https://mci-plus.com>

# MCIスクリーニング検査プラス検査実施状況

## ■検査実施施設数

全国 約2700 施設

内 健診実施医療機関

全国 約600 施設

### ■検査実施医療機関 分類

- ・健診センター : 人間ドッグ・健康診断のオプション検査としての採用が増えてます。
- ・専門医の医療機関: 脳神経外科・神経内科・精神科での採用されてます。
- ・専門外の医療機関: 内科・整形外科・耳鼻科・小児科・産婦人科・歯科等  
さまざまな医療機関で採用。  
かかりつけて通う受診者向けに案内されている医療機関が多いです。

## ■導入施設 例

### 長野県 約 45 施設

#### ■松本市 施設採用例

塩ノ崎医院  
大野医院  
一之瀬脳神経外科病院  
松本市医師会検査健診センター

#### ■長野県 施設採用例

JA長野厚生連 長野松代総合病院(長野市)、長野県健康づくり事業団 長野健康センター(長野市)  
脳とからだのくらしまクリニック(長野市)、北アルプス医療センター(北安曇郡)  
輝山会記念病院 健診(飯田市)、やざわ虎クリニック(諏訪市)、はやし小児科・内科(諏訪市)  
小林脳神経外科・神経内科病院(上田市)、特定医療法人丸山会 丸子中央病院(上田市)  
伊那中央病院 健診センター(伊那市)、今井内科胃腸科クリニック(岡谷市)、諏訪湖畔病院(岡谷市)

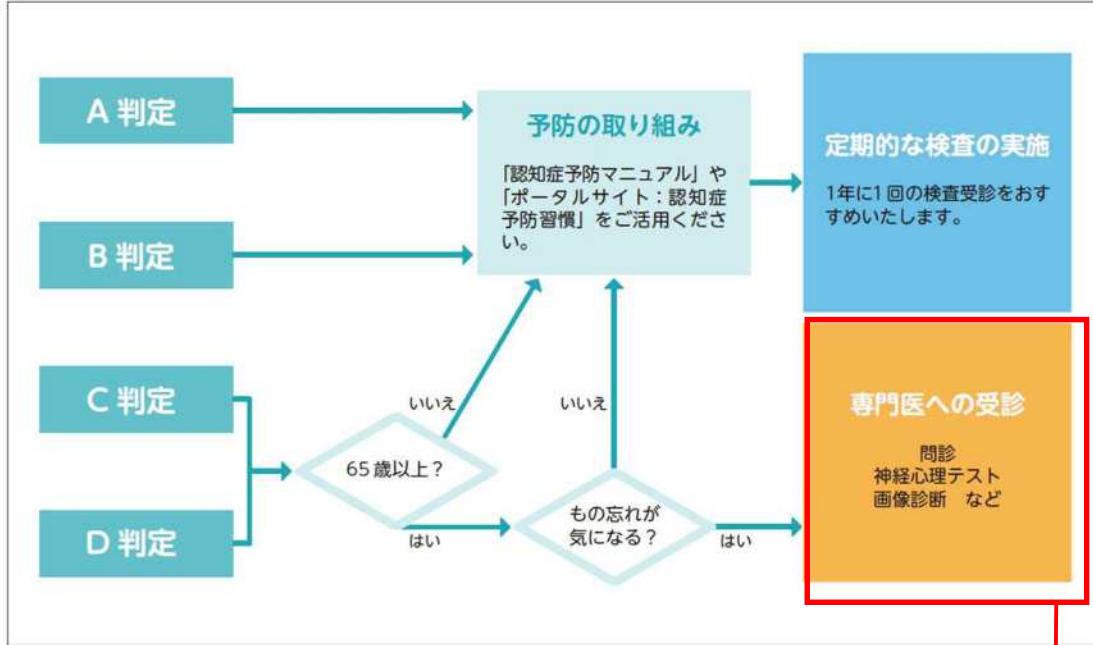
#### ■グループ施設での採用例

- 独立行政法人労働者健康安全機構 3施設(岡山労災病院、熊本労災病院、愛媛労災病院)
- JHCO関連施設 全国 13施設
- 徳洲会関連施設 全国 9施設(千葉徳洲会病院、岸和田徳洲会病院 等)
- 済生会関連施設 全国 5施設(富山県済生会高岡病院、岡山済生会昭和町健康管理センター等)
- 公立学校共済組合様関連 全国 5施設(東北中央病院、近畿中央病院、関東中央病院 等)
- JA関連施設 全国 7施設(JA鹿児島厚生連、JA健康管理センターさがみはら等)
- 結核予防会関連施設 全国 8施設(札幌複十字総合健診センター、やまがた健康推進機構等)
- IMSグループ(池袋ロイヤルクリニック、イムス東京健診クリニック 等)

# 受診後のフォローについて

- 低リスク（A、B 判定）を目指して、別冊の資料（認知症予防マニュアル）や予防のためのポータルサイト（認知症予防習慣）を活用いただき、生活習慣の改善などを中心に予防に取り組んでいただくことをお勧めしております。
- 高齢でかつ物忘れの気になる方は専門医による 2 次検査を推奨しております。

以下は弊社で推奨している判定別の対応フローです。



## MCIスクリーニング検査二次受け入れ医療機関一覧

東京都二次医療機関 28施設

MCBIにて2次受け入れ先医療機関リストをご用意しております。  
 必要な際はお申し付けください。  
 リストを共有させていただきます。

No.	施設名	施設種別	住所	TEL	備考
1	東京都立中央病院	総合病院	東京都中央区	03-3568-1111	
2	東京都立大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
3	東京都立大田病院	総合病院	東京都大田区	03-3713-1111	
4	東京都立東横田病院	総合病院	東京都東横田市	03-3582-1111	
5	東京都立東葛病院	総合病院	東京都葛飾区	03-3682-1111	
6	東京都立東船場病院	総合病院	東京都中央区	03-3568-1111	
7	東京都立東区病院	総合病院	東京都東区	03-3582-1111	
8	東京都立東大田病院	総合病院	東京都大田区	03-3713-1111	
9	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
10	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
11	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
12	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
13	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
14	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
15	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
16	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
17	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
18	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
19	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
20	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
21	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
22	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
23	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
24	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
25	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
26	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
27	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	
28	東京都立東大塚病院	総合病院	東京都北区	03-3822-1111	

## 検査結果についてのお問い合わせ対応

検査結果報告書の表紙にMCBIへの問い合わせ先を記載しております！

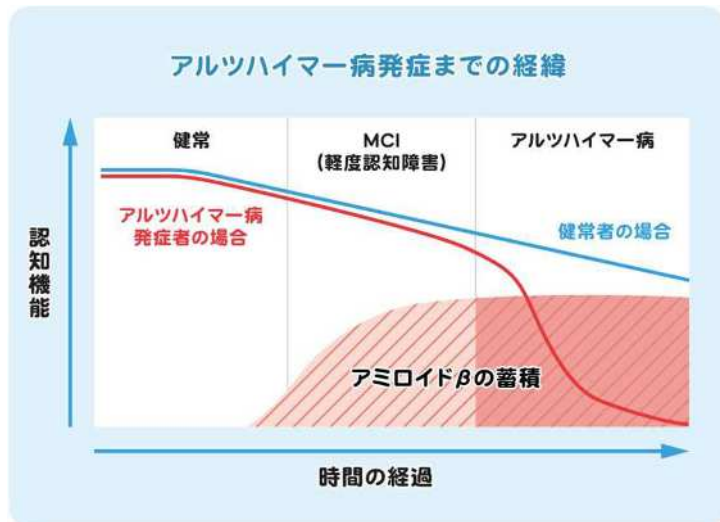
検査結果についてのご質問、お問い合わせはMCBIで対応させていただきます！！



# 認知症予防のためのリスク検査 MCIスクリーニング検査プラス

## < MCIスクリーニング検査プラスとは？ >

認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)のリスクを調べることの出来る血液検査です。軽度認知障害(MCI)は、健常者と認知症の中間の段階を指します。通常の日常生活には問題は有りませんが、認知症の予備軍とも言われ、そのまま放置されると5年で50%近くが認知症に進行してしまうと言われております。

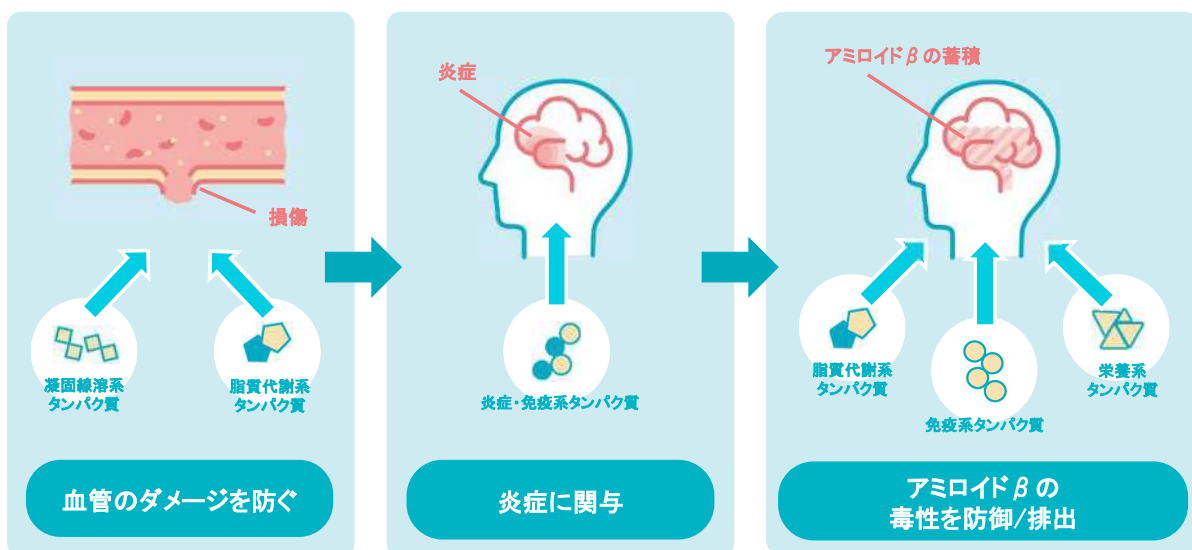


しかし、MCIの段階で適切な予防や治療を行えば認知症の発症を防ぐこと、遅らせることが可能と言われており、MCIの段階での対処は認知症予防の上で非常に重要です。



## < MCIスクリーニング検査プラスの特徴 >

アルツハイマー型認知症発症の主な原因の一つとされるアミロイドβは老化や生活習慣の乱れにより脳内に蓄積されていきます。本検査では、血管損傷や炎症、アミロイドβの排出等に関わる9つのタンパク質を「栄養」「脂質代謝」「炎症・免疫」「凝固線溶」の4つのカテゴリーに分類し血中量を測定することでMCIのリスクを評価しております。



MCIスクリーニング検査プラスで早期にMCIのリスクを知り、適切な対処・予防を行うことで、認知症の予防につなげていただけます

# <報告レポートイメージ>

テスト タロウ 様 MCIスクリーニング検査プラス 結果報告書

### リスク評価

あなたのMCIリスク値 **1.58**

▼今日 ▲前日 ▼前々日

MCIのリスクは高めます。専門医による詳細な検査を要請し、適切な指導を受けられることをおすすめします。

評価	リスク値	説明
A	0.00~0.50	現在の生活習慣を継続し、健康的な日常生活を心がけましょう。ご自身の状態を定期的に把握して予防に努めましょう。
B	0.51~1.00	健康的な生活を意識的に習慣づけることで、MCIのリスクを減らすことができます。予防は早く取り始めるほど効果的なので、引き続き予防に努めましょう。
C	1.01~1.50	【中年期の方】現在の生活習慣を見直すきっかけと捉え、予防に取り組み、健康的な日常生活をこころがけることが大切です。 【高齢の方】生活習慣を見直し、早急に予防に取り組みましょう。物忘れが気になる方は専門医に診てもらいましょう。
D	1.51~2.00	【中年期の方】このままの生活習慣が続くと将来的にMCIのリスクが高まります。日常生活を見直し、予防に取り組みましょう。 【高齢の方】専門医による詳細な検査を要請し、適切な予防を受けられることをおすすめします。

※高齢の方には一般的に1.0以上の方を指します。

当検査ではアルツハイマー型認知症の発症に関わるタンパク質の量を測定することでMCIのリスクを判定しています。またそのタンパク質を4つのカテゴリーに分けてリスクレベルを表しています。

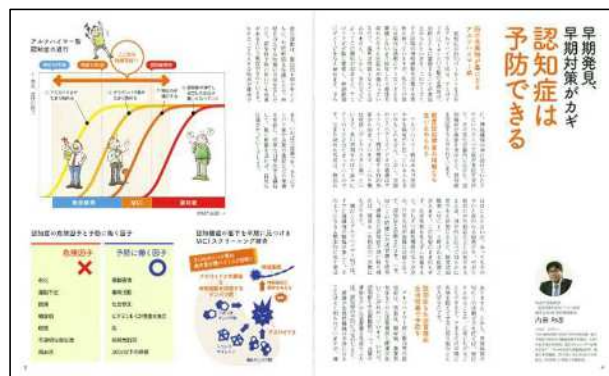
### 4つのカテゴリーにおけるあなたのリスクレベル

カテゴリー	リスクレベル
良好	0.0
注意	3.3
要注意	6.7
中等	3.1
軽度	4.9
炎症・免疫	2.7
認知症	3.9

検査を終えて

MCIや認知症の予防は生活習慣の見直しが一番大切だとされています。冊子の「認知症予防マニュアル」や「認知症予防サイト」を参考に予防に取り組みましょう。次回は2022年の6月頃を目安に検査を受けましょう。

9つのタンパク質の測定値をもとに統計的手法でMCIのリスクを評価します。判定結果はA~Dの4段階にて報告致します。受診後のフォローには認知症予防のため別冊資料も提供させていただきます。



検査項目名	MCIスクリーニング検査プラス
検体量	血漿(2mL以上)
容器	EDTA-2Na採血管
保存(安定性)	採血後、常温/冷蔵24h以内に遠心分離し、血漿を分注凍結し提出
報告期間	検体受領から20日
測定・解析機関	株式会社MCBI
検査方法	LC-MS 法
備考	<b>すでに認知症と診断されている方は検査対象外となります。</b> また急性炎症が認められる方、肝硬変の方、先天性脂質異常症の方、自己免疫性疾患をお持ちの方は判定結果に影響する可能性がございます前述の治療薬を服用されている場合も、判定に影響がある可能性がございます。

参考文献:

1. Uchida, K, Liu, S, et al. Amyloid-β sequester proteins as blood-based biomarkers of cognitive decline. *Alzheimers Dement (Amst)* 270-280 (2015)
2. Liu, S, Uchida, K, et al. Serum levels of proteins involved in amyloid-β clearance are related to cognitive decline and neuroimaging changes in mild cognitive impairment. *Alzheimers Dement (Amst)* 11, 85-97 (2019)
3. Zlokovic, BV. Neurovascular pathways to neurodegeneration in Alzheimer's disease and other disorders. *Nat. Rev. Neurosci.* 12, 723-738 (2011)
4. Sweeney, MD, et al. Vascular dysfunction-The disregarded partner of Alzheimer's disease. *Alzheimers Dement* 15, 158-167 (2019)
5. Montagne A, Zlokovic BV, et al. APOE4 leads to blood-brain barrier dysfunction predicting cognitive decline. *Nature* 581,71-76(2020)